



Vol. 39

さと
やすらぎの組β



第4回

秋祭り

10月23日
日曜日

くもりのち晴れ



10月 23日(日) 第4回秋祭りを開催しました。

当日は天候が心配されましたが、午前中の雨がうそのように午後からお天気となり、澄みきった青空の中、無事に開催することができました。



管理棟ホールでの出し物や抽選会、また、ぜんざいやカレーライス等の出店はご利用者の方々やご家族で賑わいました。ご利用者の方々も出店の食べ物をたくさん食べられ、皆さん笑顔で楽しまれていました。

ステージでは、地域のボランティアの方々による踊りやケアピクス、カラオケが行われたほか、子どもたちが参加したコーラの早飲み大会が行われました。見ていてご利用者の皆様も手拍子や声援を送り大盛り上がり！



中庭のコスモスガーデンも満開となり、コスモス畑で家族一緒に写真撮影を楽しんでいました。8月から「コスモス畑」を準備してきた職員も「皆さんの笑顔が見ることができてうれしいです」と語っていました。

ご利用者の皆さんや家族の皆さんからは、「コスモス畑でいい家族写真がとれました。」「たくさんのステージイベントがあり、楽しかったです。」などの嬉しい感想をいただきました。



秋祭りの準備をして下さった家族会の皆さんや出演者の皆さん、また、職員等、笑顔あふれる秋祭りになりました。たくさんのご来場ありがとうございました。





義母の永眠後、わたしの介護が始まりました

義妹は、七人兄弟の末っ子で初めての女の子でした。生後まもなく障害があることがわかり、長い間、母親と一緒に自宅の母屋で生活をしていたそうです。

義妹が19歳の時に、私が三男の嫁として嫁いできました。その時も、義妹は離れて生活しており、私の閑わりはほとんどありませんでした。

平成16年に主人と義母が亡くなり、その後は私が義妹と一緒に生活し、身の回りの世話をしていました。

医師の往診や介護サービスを利用しました

母屋での義妹の生活は、起きている時には正座をしてテレビを見たり、寝て過ごすなど、外へ出る事があまりありませんでした。病院へ行く際には外に出ますが、車に乘ろうとすると暴れて抵抗するので、受診は難しかったです。

そのため、平成16年6月から医師の往診を受け始めました。同時に週二回、ホームヘルプサービスの利用を開始し、主に入浴の介助を受けようと試みました。しかし、入浴介助に対する義妹の拒否が強く、受け入れるのには一年以上かかりました。

往診開始から半年後には肝機能が悪いことがわかりました。体重を減少させるためにも体を動かすことを勧められたので、離れから母屋に来てお手玉をするなどして、まずは半日身体を起こしていることから始めました。

大好きなラーメンと一緒に

その後は、少しづつ体を動かす機会も増え、外に出て歩けるようにまでなりました。それを機に、平成21年10月からデイサービスの利用を始めました。

デイサービスでは、行事やレクリエーションに参加することが楽しかったようです。今まで車に乗るときに抵抗していたのに、送迎のおかげで車にも慣れて、外食も可能



入所前の多美子さん

義妹（松尾多美子さま）が平成27年5月より特養に入所中。10年以上、三重子さまが在宅で介護されていました。



になりました。義妹の好きなラーメンを食べに一緒にラーメン屋に行ったことが思い出に残っています。一緒に外食もできるようになりました、とても嬉しかったのです。

私のことも忘れてしまうのかしらと、不安でした

デイサービスとショートステイを利用しながら離れでの生活を続けていましたが、3年前頃から、義妹の様子に変化が見られ始めました。以前は、デイサービスから帰ると自分で部屋まで戻っていましたが、部屋が分からず、家の中をうろうろ歩き回ることが多くなっていました。脳神経外科を受診したところ、認知症の診断を受けました。ホームヘルパーさん達から言われて、「認知症なのかなあ」とは思っていましたが、やっぱりショックでした。私のことも忘れてしまうのかしらと、とても不安でいっぱいになりました。

仕方なく拘束することもありました

平成26年にはショートステイ利用時に歩行状態の異変に気づき、受診したところ、右股関節骨折との診断を受けました。骨折後は、座る事も難しくなり、食事も拒否するようになってしまいました。入院中、食事をどうしても食べないときには点滴をしましたが、点滴も外そうとするので、仕方なく拘束することもありました。その時は、涙が出る思いでした。なるべく拘束されないよう、私ができる限り付き添いました。

| やすらぎの郷を利用し始めてから…

退院後は歩くことができなくなり、自宅での生活はできなくなってしまいました。その頃からやすらぎの郷のショートステイの利用を開始しました。利用してからは、少しずつ食事を食べるようになり、安心しました。

65歳になった頃、やすらぎの郷へ入所となりました。入院中はイライラして表情も険しいことが多く、食事を食べない事が続いていました。でも、やすらぎの郷を利用し始めてからは、表情も穏やかになり、今まで拒否していた食事も食べるようになりました。



秋まつりに参加する多美子さんと三重子さん

| 私を忘れないでほしいなあと思います

正直に言うと、現在でも義妹を自宅に連れて帰りたい気持ちはあります。でも、義妹が歩けなくなつたことや私自身の身体的状況を考えると、自宅での生活は難しく、諦めざるを得ません。でも、やすらぎの郷に入所できて本当に良かったですし、とても安心しています。これからもなるべく面会に行って、私を忘れないでほしいなあと思っています。

インタビューを終えて

お話の中で、「年は近いけれど、母親になった気持ちで」「娘みたいなものです」と繰り返し語られる様子から、心から多美子さんに向き合い、介護に取組まれてきたことがわかり心を打たれました。

「今でも家に連れて帰りたい気持ちがある」という言葉から、介護者の身体状況により要介護者を施設へ預けなければならないということは、介護者にとっては悔しいことでもあるのだと思えさせられました。少しでもご家族の気持ちを理解できるよう努めながら、入所者の方々と向き合っていきたいと思いました。

敬老の集い

9月 19日(月・祝)に敬老の集いを開催しました。

今年度当施設には、102歳を迎えた方が2名、100歳を迎えた方が5名、99歳の白寿(はくじゅ)を迎えた方が6名、88歳の米寿(べいじゅ)を迎えた方が13名、80歳の傘寿(さんじゅ)を迎えた方が3名、77歳の喜寿(きじゅ)を迎えた方1名いらっしゃり、それぞれの方々に園長から記念品を贈呈し、ご利用者の方々にお祝いしました。

贈呈した記念品は、東棟、西棟、デイサービス、ケアハウスそれぞれの職員が心を込めて選んだ品物です。

これからも、皆様方がやすらぎの郷で楽しいひと時を過ごしていただけるよう、職員一同質の高い介護の実践に努めて参ります。



デイサービス

Day Service

① 特殊浴槽リニューアル!

当 デイサービスでは、車椅子ご利用中の方が椅子に座ったまま肩までお湯につかれる特殊浴槽を導入しています。今まで特殊浴槽はありましたが、今回、新しい浴槽にリニューアルしました！以前のものよりもすばやくお湯を張ることが可能となり、快適さがアップしています。

車椅子ご利用中の方で、シャワーだけでなく、ゆっくりお湯につかりたい方はぜひご利用ください。



② 合同制作 ~みんなで力を合わせて~

利 用者同士で力を合わせて、季節ごとに大きな貼り絵を制作しています。

今回は「ひまわり」を作成しました。細かい色紙を貼るのが得意な方、色紙をちぎるのが得意な方と、それぞれが得意な作業で分業して作成しています。

皆で力を合わせて作業することで利用者同士のコミュニケーションが生まれ、出来上がったときに感じる一体感は格別です。





「地域ともっとクロス講座」を開催します

～「地域と老いを考える会」～

地域の方たちと一緒に「自分の老後に対する備え」を考える機会を作り、どうすれば安らかに老いを受け入れることができるのか?を皆さんで一緒に考える講座を開催します。



- 参加対象者**：テーマに興味を持たれた方であれば、どなたでも受講可能です。（定員 40名）
- 開催場所**：やすらぎの郷（糟屋郡志免町大字吉原600番地）研修室
- 内容**：毎回テーマを決めて、参加者が考えたい講座を継続的に開催します。
(例) 「施設について」「介護保険サービスについて」「家族の問題」「遺言書の作成」「延命治療について」「葬儀について」「老いの受容について」など。
初回は、講座のオリエンテーリングと、在宅介護の現状の報告、今後どのような内容について考えたいか?を一緒に検討します。
- 初回開催日**：平成28年12月6日(火) 14:00～16:00
以後、3カ月に1回のペースで開催します。その都度、当施設ホームページでご案内します。
- 費用**：無料（ただし、専門家に講師を依頼する場合は自己負担が発生します）
- お問い合わせ**：☎092-936-2022（担当：安達）

ありがとう! 赤十字ボランティアさん

赤十字ボランティアは日本赤十字社の事業のうちの一つであり、日本赤十字社の活動は、全国各地の多くのボランティアによって支えられています。

下記の図のように、赤十字の理念に基づいて様々ななかたちで活動するボランティアを総称し、「赤十字ボランティア」としています。

赤十字ボランティア

赤十字奉仕団

地域赤十字奉仕団

青少年赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団

個人ボランティア

防災ボランティア

当施設においては、特殊赤十字奉仕団2団体と個人ボランティア22名が日々活動しており、施設の運営に対して大きなご支援をいただいています。
今回は、志免町赤十字介護奉仕団「ふきのとう」の活動をご紹介します。

志免町赤十字介護奉仕団「ふきのとう」

【団員数】23名

【活動内容】毎月、ご入所者の園内散歩の付き添いと傾聴、入浴後の整髪、ベッドのシーツ交換など介護分野における活動。



シーツ交換



傾聴



散歩付き添い



入浴後の整容

【ふきのとう 場さまインタビュー】

入所者の方に迷惑が掛からないように、自分の健康に気を付け、家にこもらず外に出てボランティアをするようにしています。
また、入所者の方々になるべく声かけするようにしています。生き方の勉強をさせてもらっています。



ボランティアの方々の活動を、ご入所者の方々はいつも心待ちにしています。
人の役に立つことがしたい方、自分の特技を生かしたい方、ぜひ当施設で
赤十字ボランティアとして活動してみませんか?

日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県柏原郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

平成28年12月発行